

自分らしく輝く

Free Style

井上敦詞さん・幸子さんご夫婦

(INOUE FACTORY 株式会社 社長・取締役)

障がいのある方の働き先として、2012年3月に段ボール製品加工会社を立ち上げた井上さんご夫婦。現在、20～60歳までの社員と働いています。社員一人一人と向き合い、日々奮闘しているお二人にお話を伺いました。

Q 障がいのある方を積極的に雇用しようと思ったきっかけは？

A 社会福祉協議会の就労専門員さんとの出会いがきっかけでした。授産所の施設外実習の受け入れで実習生が働く姿を見て、障がいがあっても仕事に対して意欲はあるし、その人に合っていれば能力は発揮できるのだと思いました。

ただ、健常者の中に入って仕事をするより、障がいのある方同士の環境のほうが落ち着いて働けると考え、会社を設立しました。

Q 一緒に働く上で大切にしていることは？

A 【敦詞社長】できるだけ本人たちに任せることです。新しい人が入ったときも、仕事は社員たちが教えるようにしています。仕事は責任感を持ってするものですし、それによってさらに成長できると思っています。大事なことはしっかりと伝え、任せるべきところは任せていますね。

【幸子さん】その時の表情を見逃さないことです。調子の悪い人は、朝、顔を見ればわかります。そういう人には私から声をかけ、寄り添うようにしています。社員たちには、「仕事は辛いことだから、その中で楽しみを見つけてね」と伝えています。

社長は仕事の相談、私は母親のように、家庭や悩み事の相談などと、役割分担をしています。



Q 誰もが気持ちよく働ける環境づくりのため、どんなことをしていますか？

A 給料は個人の能力によって決めています。資格取得のため自分で勉強している社員もいますし、障がいの有無や重さは関係ないですね。社会保険・厚生年金の加入、有給休暇など、制度もきちんとしています。

また、ご家族との関係も大切にしています。保護者会を開催し、母親同士が情報交換や問題の共有ができるようにしたり、工場をオープンにして、いつでもご家族の方が仕事場を見に来られるようにしたりしています。

ご家族も参加できるバーベキュー、旅行、忘年会などの行事は、社員の皆がとても楽しみにしてくれています。

Q 社員の方にどんなことを期待しますか？

A 定年まで頑張って仕事を続けてほしいですね。現に昨年、定年を迎えた方も、仕事を続けたいということで今も継続して働いています。

皆、責任感を持って、ますます成長して欲しいです。

「どこに行っても、障がいのある方が働いているまちにしたい」と言う井上さんご夫婦。働く場所の拡大を目指し、就労継続支援A型事業所の開設、移動販売車での販売など、新しいことに積極的に取り組んでいます。

「やって後悔したことはない」と言うお二人のお話から、壁にぶつかりながらも、楽しく奮闘されている様子が伺えました。



▲井上さんご夫婦と社員の皆さん



▲機械でダンボールを加工する様子